

産地戦略

実施期間 令和5年度

実施主体 栃木県
都道府県 栃木県
対象地域 真岡市・芳賀町等
対象品目 大豆



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

大豆作における環境に配慮した適正施肥のため、従来の化学肥料施用に替え、発酵鶏ふんの活用を推進する。
乾燥鶏ふんは、風による損失や臭気が発生しやすいが、ペレット鶏ふんはその影響が少なく、既存の散布機（ブロードキャスター）が利用可能のため、機械の有効利用を図るとともに、経費の省力化を目指す。

現在の栽培体系

栽培マニュアルに記載のとおり



グリーンな栽培体系

栽培マニュアルに記載のとおり

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R6	備考
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0 ▶	134	減農薬減化学肥料栽培

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境省力	化成肥料を主体とした施肥体系	鶏ふん等有機質肥料の施用	化学肥料の施用量削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境省力	化成肥料由来による窒素施肥量	2 ▶	1	10a当たり基肥窒素施肥量（kg）

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

大豆生産を行う農業者・組織に鶏ふん等有機質肥料の活用事例を紹介し、化学肥料の低減による環境に優しい栽培体系を普及促進する。

関係者の役割

関係者名			
役割			

その他